

第64回卒業式授与式 答辞

登校坂の桜の蕾も膨らみ、春の訪れを感じる良き日。私たち 182 名は思い出が詰まったこの唐津西高等学校を卒業します。本日はこのような素晴らしい式を挙げてくださり、卒業生一同心より感謝申し上げます。また、吉山校長先生をはじめ、ご来賓の皆様、在校生の皆さんより、たくさんの祝福、激励の言葉を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

思い返せばあっという間の 3 年間でしたが、とても充実した日々を送ることができました。新しくデザインされた制服。毎朝登ったあの坂。ユーモアのある先生方との授業。友人との何気ない会話。当たり前の日々。今はそれさえも恋しいです。入学式。開校 110 周年記念式典。クラスの絆が深まった鏡山登山やクラスマッチ。双松祭。修学旅行。仲間とひとつになった総体。佐賀県で開催された全国総文祭。

その中でも特に印象に残っているのは充実していた最後の双松祭と辛かった受験期です。今年度の双松祭は 1・2 年生の時とは異なり、区をまとめる大変さや一人ひとりの責任の重さを実感しました。3 年生は一人一役あり、リーダーだけでなく「全員でつくりあげる双松祭」を目指し、日々準備に励みました。私は生徒会長を務めていたのですが、自分の言葉で意見を伝える難しさや表に立つことも裏で支えることも同じ苦労があることを知りました。期間中は、仲間と意見が衝突したり、気持ちの温度差に悩んだりしていましたが、「双松祭を成功させたい」という気持ちはみんな同じでした。だからこそ、じっくりと時間をかけ、みんなでつくりあげていこうと努力しました。準備の段取りから自分たちで考え、生徒総会で意見が出ていた 3 つの新競技を追加したり、自由企画に多くの生徒が出場できるように、時間を調節したりと、生徒の意見を多く取り入れ、伝統を守りつつも、時代にあった変化のある双松祭にしようと奔走しました。体育の部の当日は、昼から雨が降り始め、続行できるか心配されていましたが、応援合戦で団員とリーダーの心がひとつになったとき時、不思議なくらい晴れてきました。天気だけでなく人の心をも動かす双松祭になったと思います。一人ひとりが主体的に動き、限られた時間の中で、同じ目標に向かって努力を積み重ねたことで、それが実を結び、全員笑顔で締めくくることができました。

そして、受験期。双松祭とは対照的でそれぞれの目標に向かい進んでいく必要がありました。自分自身を見つめ直す時間。慣れない小論文や面接に戸惑った時間。ひたすら勉強した時間。すべて自分のためなのに苦しかった。それでも、進路実現に向かって努力を続けることができたのは、先生方のおかげです。普段の授業に加え、受験関連の書類の作成、忙しい中で、休みを返上してでも、私たちの不安を解消するための時間を作ってくださいました。3 年の先生方だけでなく、全ての先生方が私たちを応援してください、後押しして下さったことは忘れません。

この西高での 3 年間、私たちは何事も自分で考え、行動したことで成長できたと思います。しかし、この成長は 1 人の努力ではありません。色々な感情を共有しあえた仲間がいたからこそ、互いに高め合うことができました。西高で過ごせて良かった。みんな、今まであ

りがとう。

そして、こうした3年間を過ごせていたのは沢山の支えがあったからこそです。どんな時も私たちを全力でサポートしてくださった先生方。特に3年間毎日スケジュール帳を見てくださいありがとうございました。最初は面倒くさくて記録を怠ったこともありました。先生方とのやり取りが楽しくなり、徐々に計画的に生活する習慣が身につきました。ある時は私たちを励ますコメントやイラスト。英語で日記を書いた時は英語で返してくださいありがとうございました。志望校に合格した時、学年主任の大宅先生からの「合格おめでとう」の文字が嬉しかったです。先日私は、来年度のためのスケジュール帳を購入してしまいました。これからも続けていきます。

変わらない愛情を注ぎ続け、私たちが迷い立ち止まった時はそっと背中を押してくれた家族。お父さん、お母さんが出会って、私たちを産んでくれて、西高に通わせてくれたおかげで、仲間と出会え、思い出が沢山できました。ありがとう。これからもひとつひとつの出会いに感謝しながら、過ごしていきます。

私たちが慕ってくれ、笑顔と明るさで支えてくれた在校生の皆さん。これからたくさんの困難が待ち受けていることでしょう。しかし、隣にいる仲間と一緒に、明るい笑顔溢れる西高をつくりあげてください。

現代の社会はグローバル化が進み、様々な価値観を持った人が共存しています。AIも普及しつつあり、私たちが生まれた18年前には想像できなかったような便利な世の中になりました。これからは、様々な人とコミュニケーションを取り、互いに理解し合うこと、人間にしかない心、その心を通わせることで生まれる、人と人との繋がりが更に必要とされるでしょう。西高で積んだ経験・学びを元に、皆様に支えていただいたように、変化の多いこの時代を支え、しっかりと歩んでいくことを誓います。

最後になりましたが、ご臨席賜りました、皆様のご健康と在校生の皆様のご活躍、唐津西高等学校の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。

令和2年3月1日
卒業生代表 井手綾花